

令和4年度自己点検評価報告書



学校法人 本山学園

インターナショナル岡山歯科衛生専門学校

## 目次

1. 学校の教育目標.....	2
2. 令和4年度に定めた重点項目.....	3
3. 評価項目の達成及び取組状況.....	4
(1) 教育理念・目標.....	4
(2) 学校運営.....	6
(3) 教育活動.....	8
(4) 学修成果.....	10
(5) 学生支援.....	11
(6) 教育環境.....	13
(7) 学生募集と受け入れ.....	14
(8) 財務.....	15
(9) 法令等の遵守.....	16
(10) 社会貢献・地域貢献.....	17
(11) 国際交流.....	18
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果.....	19

## 1. 学校の教育目標

学校法人本山学園（以下、本学園と記す）は、「豊かな人間性と創造力を養う」「自主の精神を養う」「国際的視野を養う」を建学の精神とし、人間教育に力を注ぎ、人を思いやる心を大切にし、人を幸せにする心を持つ、生活に密着した真の専門医療人を育成している。

インターナショナル岡山歯科衛生専門学校（以下、本校と記す）は、学校法人本山学園のグループ校の1つで、平成21年に歯科衛生士の養成校（修業年限3年）として開校した。同キャンパス内には、理学療法士と作業療法士を養成する岡山医療専門職大学、調理師と製菓衛生師を養成する西日本調理製菓専門学校が在り、連携した教育体制により充実した医療・保健・福祉教育を行う環境が整っている。

本校の教育目的は、本学園の建学の精神のもと、学則第1条に規定しているとおり、「教育基本法及び学校教育法に基づいて、歯科衛生士に必要な専門知識や技術並びに、医療人として求められる人間性と社会性を備えた人材を育成することを目的とする。」である。それを具体化するための教育目標は、チーム医療の一員として口腔保健管理ができ、患者さまから信頼される歯科衛生士を育成することである。アドミッションポリシーとディプロマポリシーは以下のとおりである。

### 〈アドミッションポリシー〉

1. 本学の建学の精神に賛同する人
2. 歯科衛生士を目指す明確な意思を持つ人
3. 責任感があり社会に貢献できる人

### 〈ディプロマポリシー〉

下記の1～3の能力を身につけ、所定の教育課程を修了し、卒業試験に合格した者に対して、卒業判定会議の審議により卒業を認定し、専門士（歯科医療専門課程）の称号と歯科衛生士国家試験受験資格を付与する。

1. 医療人として思いやりの心を持ち、他者に共感することができ、高い倫理観を備え、責任ある行動がとれる。
2. 歯科医療の進歩や社会ニーズに対応できる生涯学習能力と問題解決能力を身につけている。
3. チーム医療の一員として多職種と協働・連携がとれるコミュニケーション能力を持ち、専門職としての口腔保健管理の知識・技術と実践力を備えている。

## 2. 令和4年度に定めた重点項目

令和4年度に定めた重点項目は次の3つである。

### ① 教育の質の向上と多様な教育の展開

学生が、社会のニーズおよび歯科医療界の動向に合致した歯科衛生士に必要な専門性の高い知識・技術の修得ができるよう、教育の質の向上と多様な教育の展開を図る。令和4年度においても前年度に引き続き、コロナ禍での学びの保障ができるようICT活用によるオンライン学習環境の整備、姉妹校との教育連携、臨地・臨床実習施設の開拓や実習内容の強化、企業セミナーの実施、歯科医療・保健・福祉関係の学会や研修会への参加、教育機器の整備、専任教員の指導能力の向上、国際交流の充実、非常勤講師・実習施設・企業と連携した教育体制強化に取り組む。また、歯科衛生士国家試験の全員合格を目指し、国家試験対策、基礎ゼミ等による個別学習指導も強化する。

### ② 学生支援の充実と体制強化

豊かな人間性と創造性を涵養する場として、基礎ゼミ活動、各種行事、学級活動、ボランティア活動等の充実を図る。専任教員と学生との関わりを密にし、保護者と連携を図り、学生生活を健全に送ることができるよう学生サポートを強化する。また、学生の模範となる学業優秀な学生や有資格者に対し、本山学園の奨学金制度により就学を支援する。

### ③ 学生確保

アドミッションポリシーに則して、広報・入試チームと専任教員が連携を取った戦略的な広報活動を行い、志願者を増加させ入学定員を確保する。オープンキャンパス・入試説明会の内容強化、夜のオンライン学校説明会の新規導入、高校訪問、進学・校内ガイダンスの実施、校内職業ガイダンス講師派遣、学校見学の受入れ、高校教員対象の公開授業、ソーシャルメディアを活用した情報発信の広報活動などに力を入れる。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大により計画通りに取り組むことができなかった内容もある。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価基準を次の通りと定め、各評価項目の達成について評価するとともに、取組状況についての概要、課題、今後の対策、特記事項について記載する。

評価基準
5. きわめて進んでいる    4. かなり進んでいる    3. 進んでいる    2. やや進んでいない    1. ほとんど進んでない

#### (1) 教育理念・目標

##### 【概要】

本学園の建学の精神は、「豊かな人間性と創造力を養う」「自主の精神を養う」「国際的視野を養う」である。本校の教育目的・教育目標は、建学の精神に則って定めている。本校の教育目的は、「教育基本法及び学校教育法に基づいて、歯科衛生士に必要な専門知識や技術並びに、医療人として求められる人間性と社会性を備えた人材を育成することを目的とする。」であり、学則第1条に謳っている。本校の教育目標は、チーム医療の一員として口腔保健管理ができ、患者さまから信頼される歯科衛生士を育成することである。

本校の理念・教育目的・教育目標は、「入学案内」「学生便覧」「ホームページ」に掲載し、受験生や保護者に対しては、オープンキャンパス、入試説明会、夜のオンライン学校説明会、キャンパスツアー、進学ガイダンス、校内ガイダンス、学校見学で説明している。入学後は、学生には入学前オリエンテーション時に説明を行い、保護者には個別面談や相談等で周知を図っている。

評価項目	評価結果
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	⑤ 4 3 2 1
学校における教育の特色は明確か	⑤ 4 3 2 1
学校の将来構想を抱いているか	⑤ 4 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像などが学生・保護者等に周知されているか	5 ④ 3 2 1

##### ① 課題

建学の精神、教育目的、教育目標を堅持しつつ教育水準を向上させ、社会のニーズに呼応した有益な人材育成に取り組む。現在、同キャンパス内の西日本調理製菓専門学校とは、双方に講師の派遣やコラボ授業、岡山医療専門職大学からは講師の派遣など教育連携を図っているが、さらに教育水準を上げるために、姉妹校の教員と研究分野での共同も課題である。また、本校の特徴を明確に打ち出すためのカリキュラム改正も課題である。

学校の理念・目的・育成人材像などの周知については、保護者に対し、令和4年度はコロナ禍のため、保護者説明会と保護者会を実施できず、個別面談や相談等で周知を図っているものの、次年度においては、保護者に向けての周知方法を検討する必要がある。

##### ② 今後の改善方策

教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会の歯科界の有識者や臨地・臨床実習施設関係者、非常勤講師、職能団体からの意見を継続的に聴取すると共に情報の共有化を行い、社会的ニーズに呼応した実践的な歯科衛生士養成機関として、今以上に教育水準を向上させる。岡山医療専門職大学や西日本調理

製菓専門学校との教育連携や共同研究、カリキュラム改正により、教育水準の向上と本校の特色をさらに明確にする。保護者に対し、保護者説明会や保護者会を行い、学校の理念・目的・育成人材像などの周知を図る。

③ 特記事項

特になし

## (2) 学校運営

### 【概要】

本学園の運営体制は、「学校法人本山学園寄附行為」に基づき「理事会」、「評議員会」を設置、「監事」を選任して行っている。予算・事業計画、決算・事業報告等、法人の管理運営に関する重要事項について、「理事会」を議決機関、「評議員会」を諮問機関として審議を行い決定している。「理事会」は、学園の最高意思決定機関として機能し、理事長が学校法人を代表し、その業務を総理している。

運営方針は、理事会で決定し、学事運営は、学校長が主宰する「全体会議」で審議・決定している。本学園内の学校間の情報共有や連絡調整、共通の問題や諸課題等の審議は「学園連絡会議」で行われている。就業規則、賃金規程、人事評価規程が整備されており、健全な運営体制にある。

その他、「教務委員会」「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」「自己点検評価委員会」「防火・防災実務委員会」「ハラスメント対策委員会」「学園祭準備委員会」「研究倫理委員会」「安全衛生管理委員会」があり、教育・学校運営を行っている。「本山学園新型コロナウイルス対策委員会」では、日々変化する新型コロナウイルス感染症の状況を的確に把握し対策を講じてきたが、令和4年度末をもって解散となった。

また、職業実践専門課程認定校としてあらゆる情報を公開している。教育活動等の情報は、パンフレット、ホームページ、facebook、LINE、Twitter等で公開している。学内の情報伝達は、学園内のイントラネットが整備され、掲示板の活用により本学園の法人事務局や設置校との横断的な連絡調整・情報の共有化が図られている。クラス担任による面談や基礎ゼミ活動、アンケート調査により学生の要望・意見を情報収集し、学校運営に反映させている。

評価項目	評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	⑤ 4 3 2 1
人事、給与に関する規則等は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	⑤ 4 3 2 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	⑤ 4 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	⑤ 4 3 2 1
学生の要望や意見を反映した学校運営がなされているか	⑤ 4 3 2 1

### ① 課題

現在、学園内のイントラネットは整備され、掲示板（nas01）の活用により、本学園の法人事務局や姉妹校との横断的な連絡調整・情報の共有化が図られている。非常勤講師との連絡はEメールを活用し、業務の効率化を図っているが、依然として Moodle の機能を十分に活用できていないのが課題である。

## ② 今後の改善方策

令和4年度では、非常勤講師を対象に Moodle 説明会を Web 上で開催し、全教科で Moodle が運用できるよう設定したが、十分に活用できていないため、次年度においては、Moodle 説明会を非常勤講師に対し、PC 教室で作業しながら、具体的（コースの開設、トピックの編集、ユーザー登録、講義資料の提示・更新、メール通知、小テストの作成・得点確認、課題の提示・確認等）に実践形式で開催する。

また、学生の要望や意見の情報収集のために、引き続きオフィスアワーの時間の確保と学生生活満足度調査を実施する。

## ③ 特記事項

なし



### (3) 教育活動

#### 【概要】

教育基本法および学校教育法に基づき、厚生労働省の指定規則に従って、カリキュラムを組み立てている。1年次は基礎分野科目・専門基礎分野科目、2年次は専門分野科目、3年次は専門分野科目と選択必須分野科目に重点をおいて編成し、1年後期より臨床実習を段階的（見学・実践・臨床能力獲得）に実施している。1年次の早期段階において歯科医院で見学実習を行うことで、専門分野科目への学習導入と歯科衛生士業務を理解させる。2年次には前後期通年で臨床実習を行うことで、学内での専門分野科目や実習科目の理解度を高める。3年次は臨床・臨地実習や国家試験対策により、国家試験に合格できる実力鍛錬と臨床能力の習得に努める教育課程を編成している。また、学内における実習・演習科目は、少人数制やチーム・ティーチングスタイルをとることにより、きめ細かな指導が行えるように工夫をしている。進級・卒業・実習判定基準について、学則・学生便覧・内規・実習要項により明示している。また、令和4年度は、前年度に引き続き、コロナ禍での学びの保障ができるようICT活用によるオンライン学習環境の整備を行い、新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては遠隔授業（Zoomライブ配信）を実施している。コロナ禍による実習内容の制限や臨地実習の受入れの中止等については、全国歯科衛生教育協議会のコア・カリキュラムのライフステージ各期の実習内容や障害者支援・周術期支援の実習内容に準じて、新規に外部講師を招いたり、企業セミナーを積極的に取り入れたり、学内代替実習など工夫し補完している。

外部関係者の評価としては、教育課程編成委員会を年2回、学校関係者評価委員会を年1回、臨床実習指導者連絡会議を年3回、教科担当者連絡会議を年1回実施し、外部の有識者や実習施設の指導者、非常勤講師から、本校の教育体制、教育内容について評価や助言を受け、教育に反映させている。授業評価については、各教科の最終講義時に、受講している学生を対象にアンケート調査（Web）を行い、その結果を教科担当者にフィードバックし、授業改善に活かしている。

教員には自己研鑽を推進し、教員研修計画のもと歯科医療・保健・福祉・教育関連の学会・研修会・講習会への参加をすることで、教員の資質向上を図っており、教育に寄与している。令和4年度の学会・研修会・講習会は、会場とWebのハイブリッド開催やオンデマンド開催など受講の選択肢が増え、数多く参加することができている。また、本学園内ではFD研修会を2回開催している。

評価項目	評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
教育理念、養成人材像や業界のニーズに照らして、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	⑤ 4 3 2 1
学科等のカリキュラムは関連分野のニーズに照らして体系的に編成されているか	⑤ 4 3 2 1
関連分野の医療施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	⑤ 4 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	⑤ 4 3 2 1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	⑤ 4 3 2 1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	⑤ 4 3 2 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	⑤ 4 3 2 1

人材育成目標の達成に向け授業が行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	⑤ 4 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	⑤ 4 3 2 1
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	⑤ 4 3 2 1

### ① 課題

令和5年度では、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行するので、臨地実習受入れの制限は緩和されると思われる。コロナ禍前の臨地実習体制に戻していくことが課題である。

令和4年度においては、教員の自己研鑽は、会場とWebのハイブリッド開催やオンデマンド開催など受講の選択肢が増え、数多く参加することができ、得られた知見も多く教育に活かすことができている。次年度においても、教員に対して、学会・研修会・講習会への参加や研究活動を推進し、教育力の向上に努める。

カリキュラムの見直しは現在進行形で、令和5年度に申請予定である。社会環境や状況を踏まえながら、今後の学園の中長期目標に沿って、本校の特徴を明確に打ち出すためのカリキュラムを検討していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

令和4年度に引き続き、次年度においても教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などの歯科医療界の有識者や非常勤講師、臨地・臨床実習施設関係者、職能団体から徴収した意見や学生の意見をもとに、本校の教育環境・体制も含めて、現行カリキュラムの見直しを行う。また、本学園の設置校との連携した教育体制を再編し強化する。

教員の研修については、引き続き研修計画を立て、積極的に学会・研修会・講習会・セミナー等に参加し、自己研鑽に努める。

### ③ 特記事項

特になし

#### (4) 学修成果

##### 【概要】

歯科衛生士国家試験合格率 100%を目指し、専任教員と非常勤講師の連携のもと国家試験対策補講の実施、業者による特別対策講義（国試解説講座、ファイナルアタックセミナー）、業者模擬試験の最大限の実施、過去問対策課題、グループ・個別補講、個人面談や卒業生国試サポーターによるサポート、Zoom や LINE を利用した個別相談・指導などの対策を講じが、合格率 84.6%で 100%を達成することができなかった。

就職については、就職希望者全員の就職先が決まり、就職率は 100%であった。退学率については、クラス担任・基礎ゼミ担当者の W サポート体制で学生指導を丁寧に行い、個別対応を強化し、保護者と綿密に連携をとることで退学率低減を図っているが、コロナ禍による経済不況や精神不安などやむを得ぬ事情や進路変更等で退学し、退学率は 7.3%であった。卒業生・在校生の社会的な活動及び評価については、就職先の歯科医院からの情報や各期の連絡網などで把握できている。

評価項目	評価結果
就職率の向上が図られているか	⑤ 4 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	5 ④ 3 2 1
退学率の低減が図られているか	5 ④ 3 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 ④ 3 2 1

##### ① 課題

資格取得率が 100%となるよう教育環境・体制を強化することが課題である。また、令和 2 年度の退学率は 9.0%で、令和 3 年度 6.7%と退学率が一旦は低減したが、令和 4 年度は 7.3%と少し増加したので、次年度においては退学率を減少させることが課題である。

卒業生の動向については、各期の連絡網（クラス LINE）や就職先の歯科医院より把握できているが、同窓会組織を強化し、社会的活動・評価等を把握できる体制を整える。

##### ② 今後の改善方策

国家試験対策については、12 期生が受験した歯科衛生士国家試験の結果（正解率）の分析を行い、本校の弱点と出題傾向について分析し、各教科担当者と情報を共有し、連携した国家試験対策を計画する。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症に罹患すると国家試験が受験できなかったが、次年度は、5 類感性症移行に伴い、その規制も緩和されると予想されるので、国家試験前日まで登校させ個別指導を徹底する。

次年度においても引き続き学生指導を丁寧に行うことやカウンセリング室の臨床心理士との連携したメンタルサポート、保護者と綿密に連携をとることで退学率低減を図る。

また、同窓会組織を強化するために、入学時から準会員として入会を勧める。

##### ③ 特記事項

特になし

## (5) 学生支援

### 【概要】

就職に関する支援では、就職担当・クラス担任・基礎ゼミ担当で就職活動の支援を行っている。相談・援助を行い、就職希望調査（求職票）や個人面談、求人情報配信、履歴書の書き方、就職面接対策などの支援を行っている。また、外部講師による就職セミナーでは、岡山労働局委託若年者地域連携事業を活用し、ビジネスマナーセミナー、就職活動対策セミナー、労基法セミナーを実施している。

学生相談体制は、役職者、クラス担任、基礎ゼミ担当者、事務職員のそれぞれが役割を分担し、組織的に機能している。また、カウンセリング室を設置し、臨床心理士の専門家による個別相談（希望者）も行っている。

健康管理については、年1回の健康診断を実施している。学園内の医務室には看護師が常駐し、学生ならびに教職員の健康管理を日々行っている。また、1年生には、日本環境感染学会の院内感染対策としてのワクチンガイドラインに沿って、B型肝炎・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体検査を行っている。抗体のない学生に対して、ワクチン接種の必要性を説明し、B型肝炎のワクチン接種は学内で集団接種を行い、その他のワクチン接種については、かかりつけ医で接種するよう指導している。

結核検査として1・2年生には胸部エックス線写真撮影を行い、さらに2年生にはT-SPOTテストも実施している。全学年対象にインフルエンザ予防接種も実施している。

新型コロナウイルス感染症対策としては、本山学園新型コロナウイルス対策委員会で日々変化する新型コロナウイルス感染症の状況を的確に把握し対策を講じてきたが、令和4年度末を持って委員会は解散となる。新型コロナウイルスワクチン接種についても、学生および教職員は原則接種している（体質により接種できないと医師の診断がある者は除く）。本館講義室、実習室等に換気性能に優れた空気清浄機や空調用抗菌フィルターを設置し、本校の各教室と講師控室に飛沫防止パーテーションを設置している。また、学生には毎日、検温と体調（新型コロナウイルス感染症の諸症状）について、体調チェックシートの提出やWebアンケートで報告させて健康管理をしている。

経済的支援としては、本山学園奨学金（1年次）、親族割引奨学金（1年次）、成績優秀者奨学金（2・3年次）、キャリアアップ支援奨学金（社会人対象）、経済支援奨学金（市町村民税非課税世帯）がある。また、日本学生支援機構奨学金、岡山県私学振興財団奨学金、高等教育の修学支援新制度等の申請サポートや経済状況に合わせた分納などによりきめ細かく対応している。保護者とは、必要に応じて保護者面談や連絡を随時行い、緊密な連携を図っている。卒業生については、歯科衛生士としての日常業務の相談、技術指導や再就職・復職支援も行っている。

評価項目	評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	⑤ 4 3 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	5 ④ 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	⑤ 4 3 2 1
保護者と適切に連携しているか	⑤ 4 3 2 1

## ① 課題

就職については、求人倍率が 41.4 倍と高く比較的良好に決まり、就職希望者は、開校以来就職率 100%である。次年度も引き続き、就職率 100%となるよう支援していく。

令和 4 年度はコロナ禍のため、学生生活支援の一環として行っている朝食サービスは中止となったが、キッチンカー出店・お弁当やお菓子類の自販機販売など学生生活支援を行ってきた。令和 5 年 5 月 8 日以降は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類感染症になるため、コロナ禍前と同様の学生生活支援サービスを提供することが課題である。

## ② 今後の改善方策

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症の位置づけとなったとしても、引き続き学生の体調管理や生活様式等の指導を徹底する。行事や課外活動については、感染対策を徹底しつつ、コロナ禍前と同様の活動が出来るよう計画立案する。

## ③ 特記事項

特になし

## (6) 教育環境

### 【概要】

歯科衛生士養成所指導ガイドラインにより、施設・設備が整備されている。教育上必要な機器・材料や図書等の教材関係は、年間を通じて適宜充足させ、教育環境を整備している。令和4年度は、1年生教室に飛沫防止パーテーションの設置、各種歯科用小器具の購入をしている。また、学生大ラウンジや屋外庭園、自主学习スペースやコミュニケーションスペースがあり、課外自主活動環境も充実している。

学外の実習においては、臨床実習指導者連絡会議を3回開催し、学校と実習施設との教育体制について連絡・調整を行っている。岡山大学病院では、受託実習生校の全校が集まり、連絡・調整が行われている。

防災については、学校法人で組織体制が作られており、防災計画立案、消防用設備・放送設備等の点検、避難経路の確認を1回と防火・防災訓練を2回行っている。災害に備え、学園で備蓄もしている。また、学園内にはAED（自動体外式除細動器）を設置している。

12階の図書室には、医療（特に歯科医療）・保健・福祉・栄養・調理・教養関係の書籍や雑誌等を蔵書し、個人ブース型の自習スペースもあり学習環境が整っている。新館の大学図書館は、本校の学生は申請により利用することができる。

評価項目	評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5 ④ 3 2 1
学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	⑤ 4 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
図書など教育上必要な資料が系統的に整備されているか	5 ④ 3 2 1

### ① 課題

現在、全国歯科衛生士教育協議会より2年越しに厚生労働省医政局歯科保健課へ「歯科衛生士養成所指導ガイドライン」の見直しに関する要望書が提出され、令和5年度中に通過の予定である。要望案の教育上必要な機械器具等では、削除される項目や新たに追加された項目がある。また、歯科用診療台の老朽化や学生数の増加により歯科用器具等の不足が生じている。

図書については、統計的に分類し整備しているが、医療・歯科医療・保健・栄養関係の新刊雑誌等の購入により冊数が増えているため、古い雑誌等を点検し整理する必要がある。また、新館図書購入のリスト化も課題である。

### ② 今後の改善方策

歯科衛生士養成所指導ガイドライン改訂要望案をもとに、基礎実習室と実験室の設備や歯科用器具等について購入計画を立てる。

図書については大学の図書館の司書に助言を仰ぎながら教員と学生図書委員蔵書点検を行い、不足する分野をリスト化し新刊図書を購入する。

### ③ 特記事項

特になし

## (7) 学生募集と受け入れ

### 【概要】

学生募集活動は、パンフレット（学校案内・募集要項）やホームページ、SNS（facebook やLINE、Twitter）、高校訪問、進学ガイダンス、校内ガイダンス、オープンキャンパス、キャンパスツアー、AO入試説明会、推薦・一般入試説明会、夜のオンライン学校説明会、高校教員対象説明会、パンフレット等を通じて本校の教育目的や学科紹介、教育の内容や学生生活の様子などを情報発信し、アドミッションポリシーの提示と教育成果についても正確に伝え、適正に行っている。入学選考は、AO入試、指定校推薦入試、推薦入試、一般入試を実施し、本校の基準により選考を行い、入試判定会議にて可否を決定している。

本校は、岡山県唯一の男女共学校で留学生の受け入れ体制も整備しており、県内だけでなく他県の歯科医院とも臨床実習施設として協定を結んでおり、学生の受け入れを幅広くできる体制が整っている。

評価項目	評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	⑤ 4 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	⑤ 4 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	⑤ 4 3 2 1

### ① 課題

令和4年度においては、募集要項に沿って、「AO入試（A～D日程）」「指定校推薦入試」「推薦入試（1次～3次日程）」「一般入試（1次～5次日程）」の日程の入学試験を実施し44名の入学者を確保した。次年度においても引き続き志願者が増加するよう学生募集活動を行っていく。歯科衛生士の職業理解のための事業の実施や本校の教育内容・学生の受入体制を明示した学生募集活動を行っていく。

### ② 今後の改善方策

学生募集活動を強化するために、本学園の広報・入試チームと連携をとった戦略を立て、オープンキャンパスや進学ガイダンス等から得た情報を共有化し、高校生一人ひとりに教職員が連携してきめ細やかな個別対応ができるよう体制を整える。

令和4年度では、遠方者やコロナ禍での対応を考慮し、Zoomを活用した学生募集活動として夜のオンライン学校説明会を導入したところ、それまでの来校型の夜の学校説明会よりも参加率が上がったため、次年度も継続してZoomを活用した学生募集活動を行う。また、AO入試説明会、推薦・一般入試説明会に参加した者は、受験につながっているため、実績に基づき開催時期や回数を検討する。

### ③ 特記事項

特になし

## (8) 財務

### 【概要】

予算、収支計画は過去の実績に基づいた積み上げ方式を採用しており、有効に機能している。流動比率は、帰属収支差額比率ともに優れた比率を示しており、財務基盤は良好であり、適正に会計監査を受け、監査報告書を理事会および評議委員会に提出している。また、財務に関する情報は、ホームページ上で資金収支計算書、貸借対照表、事業活動収支計算書、監査報告書を公開している。

評 価 項 目	評 価 結 果
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	⑤ 4 3 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	⑤ 4 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	⑤ 4 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	⑤ 4 3 2 1

### ① 課題

今後も18歳人口の減少やロシアのウクライナ侵攻や円高などによる経済不況が続くなど外部要因の変動を考慮し、財政基盤を安定させる。

### ② 今後の改善方策

財務基盤の維持・安定するためには、経費率の検討と定員の充足および退学者の低減を図る。また、休学者の学納金についても見直す。

### ③ 特記事項

特になし



## (9) 法令等の遵守

### 【概要】

法令ならびに厚生労働省が定める指定規則を遵守し、学校運営を行っている。個人情報保護については、入学前オリエンテーション時と臨床実習前に、文書および口頭による説明を行い、個人情報保護誓約書等の書面を交わし、学生に意識づけを徹底して行っている。さらに、本学園のインターネットによる誹謗中傷行為に対する懲戒規定をもとに学生指導も行っている。また、自己点検評価報告書および学校関係者評価報告書をホームページ上で公開している。

評価項目	評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	⑤ 4 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	⑤ 4 3 2 1
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	⑤ 4 3 2 1
自己点検・自己評価を公開しているか	⑤ 4 3 2 1

### ① 課題

自己点検評価における課題や学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、臨床実習指導者連絡会議から頂いたご意見をもとに、次年度に向け事業計画を立てている。自己点検評価委員会においては評価項目や評価基準について検討を行い、改善している。引き続き、自己点検評価の課題を抽出し、外部の関係者・有識者から頂いたご意見も積極的に学校運営に取り入れる。

### ② 今後の改善方策

自己点検評価における課題や外部の関係者・有識者から頂いたご意見について、学内各種委員会や全体会議にて検討する。

### ③ 特記事項

特になし

## (10) 社会貢献・地域貢献

### 【概要】

「出前講座」として岡山県内の希望する中・高校を対象に歯科医療に関する学習の機会を提供している。令和4年度は、中学校との教育連携として操山中学校2年生を対象に「歯科衛生士の職業理解とお仕事体験」として講義を行った。

また、岡山県赤十字献血センターへの献血協力、日本赤十字社岡山支部の救急指導のボランティア活動、一般社団法人岡山県歯科衛生士会の支部活動や委員会に関わるなど、社会貢献・地域貢献に努めている。

令和4年度は、1年生と教員で地域クリーン活動2回、1・2年有志と教員でおかやまマラソン2022のボランティア活動、1～3年の有志と教員で日本障害者歯科学会の運営ボランティア活動を行った。学園祭は実施できたものの学内限定参加と制限がかかった開催となり、地域貢献活動としての位置づけの開催とはならなかった。

評価項目	評価結果				
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	5	④	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	⑤	4	3	2	1
地域に対する貢献を積極的に実施しているか	⑤	4	3	2	1

### ① 課題

学校の施設を活用した社会貢献・地域貢献の企画を立てる。

### ② 今後の改善方策

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しても、学園祭においては、感染症対策を充分に行った上で、地域住民の方を対象に歯科に関する講座、模擬店、イベントを行い、地域との交流を図る。

「出前講座」や「高専連携授業」にも積極的に取り組む。おかやまマラソン2023で募集されるボランティア活動に積極的に参加する。また、一般社団法人岡山県歯科衛生士会の理事や支部活動、委員会に継続して関り、社会貢献に努める

### ③ 特記事項

特になし

## (11) 国際交流

### 【概要】

中国の中国医科大学と大連医科大学との友好協議のもと、教育、医療、学術研究および学生交流等の領域で友好交流を行っている。本校として、留学生に対する規定を整備し、留学生を受け入れている。

また、日常的には希望者に対し、国際的なステージの活躍を視野に入れ、国際コミュニケーション力を涵養するため一流ネイティブ講師による「実践英語レッスン」を実施している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により海外研修（ハワイ）は中止となっている。

評価項目	評価結果
国際的視野・感覚を養うための取り組み等を行っているか	5 ④ 3 2 1
留学生の受入れ・派遣について行う体制があるか	5 ④ 3 2 1

#### ① 課題

校名にある「インターナショナル」を活かすためにも、国際交流に積極的に取り組む必要がある。

#### ② 今後の改善方策

次年度においては、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられることに伴い、検疫法上の「検疫感染症」から外れるので、海外研修を検討する。国内で開催される国際学会の参加についても検討する。

#### ② 特記事項

特になし

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は、教育理念、教育目標および学園の建学の精神に照らして、学校運営、教育活動を行い、毎年、年度初めに重点的に取り組むことが必要な目標や事業計画を立案し、その結果について自己点検評価を毎年実施している。学校が取り組む課題を明確にし、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、臨床実習指導者連絡会議、教科担当者会議等で得られた意見を積極的に取り入れ、次年度の改善に繋げる組織的取り組みは成果を上げている。また、自己点検評価により教員間で問題認識が統一され、教育・運営面で活発な意見交換の場を持ち、改善に繋げている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、学事暦の変更、行事の中止・延期・縮小、臨地・臨床実習の受入れの制限等、事業計画通りに進まなかったこともあるが、活動制限がかかる中で、教育環境の整備や教育の工夫があったことは評価できるが、資格取得率が低減したことは課題として残る。さらに、今後も継続して自己点検を行い、実践的な歯科衛生士養成機関として、今以上に組織的・機動的な学校運営の改善や教育活動の向上に努める。この自己点検評価報告書は、今後ホームページ上の公表を前提に、適切な方法を確認しながら積極的に公表する。